



富士山かぐや姫ミュージアム
Mt.Fuji and Princess Kaguya Museum

赫夜 —かぐや—

博物館だより

2017
7.31

70
冊



上段：いまに伝わる猪土手のようす 中段：火縄銃とイノシシ 村で火縄銃は農具（鹿鉄砲）として使われた 下段左：描かれた東泉院領とその境界線
下段中央：東泉院跡地（左下の森）と“神領”があった富士山南麓 下段右：人が管理しなくなった猪土手の周辺は彼らのすみか（シシフ）

秋のテーマ展 地頭と呼ばれた寺院～江戸時代 東泉院領に生きる“神領百姓”～より

人と自然の境界線—江戸時代の人びとから学べること—

今から400年前の江戸時代がはじまったころ、日本列島は温暖化が進みつつありました。また、100年におよぶ戦国時代が終わりを告げ、「平和」な時代となると、山を削り、海を埋め立て、川の流れを変え、野を切り拓くといった大開発の時代ともなりました。この温暖化と大開発は農産物の生産増につながり、さらなる耕地開発を加速させました。

市内今泉にあった密教寺院・東泉院の朱印領（江戸幕府から認められた寺の領地）は、富士山南麓の中

野・一色・神戸・今宮などで、畑作中心の村落でした。耕地開発の進展は人と動物の居住エリアを接近させ、シカやイノシシが畑を荒らすようになりました。

むやみな殺生を禁じられていた時代、人は岩石を積み上げて「猪土手」を造り、銃弾をこめずに音だけ放つ「威鉄砲」で動物を追い払い、侵入を防ぎました。

現代にもつづく人と自然の境界線の問題。江戸時代の人びとから学べることもあるかもしれません。

（杉本 寛郎）

秋のテーマ展

地頭と呼ばれた寺院

江戸時代 東泉院領に生きる“神領百姓”
平成29年9月9日(土)～10月22日(日)

● 文書主義の江戸時代―「読み書きそろばん」習います―

江戸時代は、武士も百姓も町人も命令・契約・訴訟・記録などの手段として、たくさんの文書を書いてやりとりし、それを大切に保管しました。「証拠を文書で残す」ということが広く社会の常識となった時代でした。人びとは文字の読み書きや計算ができなくてはならなかったのが、武士は藩校や幕府の学問所に通い、百姓・町人は寺子屋などの塾に通いました。「読み書きそろばん」ができることは江戸時代の人には必須条件で、それに男女の別はありませんでした。江戸時代の人びとの識字率（文字の読み書きができる人の割合）は70%といわれ、同時代の世界の国々と比べても高い数値だったといわれます。

市内今泉にあった密教寺院・東泉院とその領地に生きる百姓たちも、命令書を受けとったり、要望書を提出したり、たくさんの文書をやりとりしています。それらの文書は東泉院に蓄積され、大切に保管されていました。そのなかから、東泉院と百姓がどのような関係にあって暮らしていたのかわかる資料が発見されました。それは江戸時代を通じて一般的に見られた領主―百姓関係を示すものと、東泉院領にしかみられない特殊な関係を示すものがあり、富士市の江戸時代を明らかにする上で、とても興味深いものです。

● お寺なのに“神”領！？―お寺が神社を管理する―

江戸時代、幕府の将軍が代替わりするたびに、寺や神社には幕府から朱印状という領地の認定書が出され、東泉院は「神領」として190石が与えられました。なぜお寺の領地なのに“神”領なのか。それは



東泉院の“神領”と下方五社

東泉院のある役割に関係します。東泉院は戦国時代の終わりごろ、駿河の支配者・今川義元から富士郡下方（ほぼ現在の富士市域）内にある5つの浅間神社（下方五社）の管理を任ざされていました。“お寺が神社を管理する”という体制だったのです。今川氏が滅んだ後も、豊田秀吉や徳川家康からの権利を認められ続け、それは江戸時代が終わるまで続きました。これらの神社を管理する東泉院は、「別当」と呼ばれ、神社で祭礼を開催したり、必要に応じて修理をしたり、社人（各神社に仕える人）を統率したりしました。

● お寺なのに殿さま！？―富士市の殿さま事情―

東泉院は密教寺院としての顔だけではなく、「神領」190石を領する領主＝殿さまでもありました。江戸時代の富士市域は、村ごとに殿さまが分かれていて、幕府領の村、藩領の村、旗本（万石以下の徳川家臣）領の村が入り交っていました。なかにはひとつの村を幕府領・藩領・旗本領に分けて支配する場合（相給）もありました。寺社の領地は、仏法村のように村の一部のみにある場合が多く、中野・神戸・一色・今宮のように、寺社で一村全域を領地として持つ殿さまは東泉院だけです。東泉院は支配する村・百姓から殿さまの意味を示す「地頭」と呼ばれました。

● 村・百姓と近い東泉院―殿さまが在地にいると…―

東泉院と違い、ほかの殿さまは必ずしも領地の近くに本拠地を構えているわけではなく、年貢を集めるなど必要な事務作業の担当者（旗本領だと用人）だけを領地に派遣し、江戸の屋敷に住んでいる場合もありました。

この「在地に領主がいる」ということは、東泉院と村の百姓との関係をよくも悪くも濃密なものとしてさせていました。例えば年貢。幕府領や旗本領だと米や金銭を納めればOKという場合もありましたが、東泉院では米や金銭のほかに苧袴や山菜を納めさせたり、東泉院の門番や人足を勤めるように命令していました。

ただ、しぼり取られるだけが領主―百姓の関係というわけではなく、東泉院は百姓が困窮したときは金銭を与えたり、百姓が飲用水に困ると、隣村の山奥の水源から水道を引いて村が潤うようにしてあげました。

本展示は、これまでの調査成果を広く市民の方々に示すと同時に、江戸時代の領主と百姓はどのような関係にあったのか、その実態に迫ります。 (杉本寛郎)



静岡県立美術館移動美術展

富士山と静岡ゆかりの画家たち

平成29年11月3日(金祝)～12月3日(日)

富士山かぐや姫ミュージアムは、昨春リニューアルオープンし展示室も一新したことから、このたび、静岡県立美術館移動美術展「富士山と静岡ゆかりの画家たち」を開催するはこびとなりました。

この移動美術展は、静岡県立美術館の収蔵品を県内各地の皆様にご鑑賞していただく目的で開催されており、また、富士山かぐや姫ミュージアムは、昭和56年に開館した富士市立博物館の愛称であり、開館以来36年の年月が経ちますが、本展は初めての開催となります。

今回は、風景画をコレクションの主軸とされている静岡県立美術館の収蔵品の中から、富士山や静岡ゆかりの作家による作品を集めた展覧会となっております。なかでも、栗原忠二、和田英作、柏木俊一、曾宮一彦など、東部地区にゆかりの深い作家の作品が主に出品されます。

本展をとおして、静岡県立美術館、並びにそのコレクションに親しんでいただき、芸術の題材とされてきた郷土の豊かな自然の恵みに、あらためて触れていただければ幸いです。

(高林 晶子)



第55回企画展

産業の種時く人 伝法中原4号墳と古代富士の萌生

平成29年12月16日(土)～平成30年3月4日(日)

去る平成29年2月、富士市指定文化財に新しい仲間が加わりました。それは「中原4号墳出土品」。遺跡から発掘された文化財としては実に33年ぶりの指定となるこの資料群は、市内伝法地区に所在する直径10mほどの古墳から、1992年に発掘されたものです。

このときの発掘調査では、その小さな墳丘から多種多様な膨大な量の副葬品が次々と見つかり、県内外の考古学者に大きな衝撃を与えました。出土品のうち、特に注目されたのが、東海地域で初めての発見となった鍛冶具の存在です。この古墳の主が活躍したのは6世紀後半頃と考えられますが、ちょうどその頃に金属製品を製作する小規模な工房が静岡県東部周辺に営まれ始めることがわかっており、まさにこの古墳の主がこの地域に新しい産業の種を蒔いた技術者集団のリーダーであった可能性があるのです。

この企画展では、この古墳の主の性格を推理する上で重要な出土品を一望に会するとともに、関係する古墳や当時の手工業関連遺跡を紹介することで、この人物が果たした役割と、背後に見え隠れするヤマト王権がめざした地域支配の実態へと迫ります。

(藤村翔)

関連イベント 中原4号墳市指定文化財記念シンポジウム

「東アジア世界から見た中原4号墳の被葬者(仮)」

■日 時 平成30年1月21日(日)10:00～17:00

■会 場 富士市防災庁舎7階大会議室

※時間は変更となる場合があります。



中原4号墳から出土した農具

平成29年度 展示会案内

オフダに込められた祈りのカタチ

平成30年3月17日(土)～5月20日(日)

各種イベント・体験講座案内

◆ 戦時中の料理

戦時中の体験を通して当時のことを知り、考えよう。

日時 8月9日(水)10:00～13:00

定員 小学3年生以上 先着10名

申込み 7月30日(日)9:00～電話または直接来館

◆ 富士の型染体験

富士の伝統工芸「型染」でテーブルセンターに挑戦!

日時 8月11日(金祝) 9:30～12:30

定員 小学生～一般 先着20名※小学4年生以下は保護者同伴

申込み 7月29日(土)9:00～電話または直接来館

◆ 農家の食と年中行事

旧稲垣家住宅で、さまざまな年中行事を体験! 富士山麓に生きてきた人々の暮らしを感じてみよう!!

日時・内容

①8月20日(日) そばの種まきとゆで落花生作り

②9月10日(日) 里芋の収穫と月見団子作り

③10月29日(日) そばの収穫とかまどめし

④11月25日(土) そばの脱穀・製粉と干し芋作り

⑤11月26日(日) そばうち

※③、④、⑤は3回連続での出席が条件です

⑥12月23日(土祝) もちつきと注連縄作り

⑦1月8日(月祝) 蕪玉作りと小豆粥

⑧3月17日(土) 牡丹餅作り

各回とも原則9:00～13:00

定員 小学生以上 各回先着10名程度

※詳しい申込み方法、日時等は「広報ふじ」をご覧ください

なるか、直接ミュージアムへお問い合わせください。

◆ かまどめしを食べよう!!

はがまとかまどを使っておいしいご飯が炊けるよ!

日時 9月3日(日)11:00～13:00

定員 小学生～一般 先着15名※小学生以下は保護者同伴
申込み 電話または直接来館

◆ 稲垣家のお泊り体験

100年前にタイムスリップ! 当時の暮らしを体験!!

日時 10月14日(土)15:00～15日(日)9:00

定員 小学生とその保護者 4組16名程度

申込み 往復はがき(9/10～9/30必着)

◆ 親子どきやき体験

土器ペンダントづくり、火おこし体験ができます。

日時 11月23日(木祝)9:00～12:00

定員 3歳～小学生 先着35名※小学4年生以下は保護者同伴

申込み 11月11日(土)9:00～電話または直接来館

◆ チャレンジ!! 陶芸&陶芸歳時器

「チャレンジ!! 陶芸」は、偶数月の第2・4土曜日(2回講座)、「陶芸歳時器」は奇数月の第2土曜日に開催しています。気軽に陶芸を楽しもう!

◎各講座、イベントともに内容・日時が変更する場合があります。詳しくは、博物館ホームページや各講座チラシ、広報ふじ等でご確認ください。



脱穀したそばの実を石うすで挽くうす (農家の食と年中行事)

富士山かくや姫ミュージアム 赫夜—かくや—

発行年月日 平成29(2017年)7月31日

編集・発行 富士山かくや姫ミュージアム

Mt. Fuji and Princess Kaguya Museum

印刷 文光堂印刷株式会社

住所・連絡先 〒417-0061 静岡県富士市伝法66-2 TEL.0545-21-3380 FAX.0545-21-3398

HP. <http://museum.city.fuji.shizuoka.jp/> E-mail. museum@div.city.fuji.shizuoka.jp

開館時間 4月～10月 9:00～17:00 11月～3月 9:00～16:30

休館日 月曜日(祝日の場合は開館)、祝日の翌日、12/29～1/3(年末年始)

歴史民俗資料館(分館) 開館時間・休館日は本館と同じ

博物館屋外展示(ふるさと村) 休館日なし すべて観覧無料

博物館だより No.70



タイトルの「赫夜—かくや—」は、富士山のかくや姫物語を今日に伝える「富士山大縁起」(当館蔵)に登場する「赫夜姫」からとっています。